

# 子どもの貧困についてのアンケート調査結果

(北海道ユースプランナー制度プロジェクトチーム)

## 1 概要

北海道ユースプランナーに「子どもの貧困」についてアンケートを行い、若い世代の意識を調査した。

## 2 対象

北海道ユースプランナー(登録者 75 名)

## 3 実施期間

令和 4 年 (2022 年) 10 月 6 日～10 月 31 日

## 4 実施方法

北海道電子自治体共同システムの簡易申請機能を活用し、ユースプランナーが同システムのアンケートフォームから回答した。

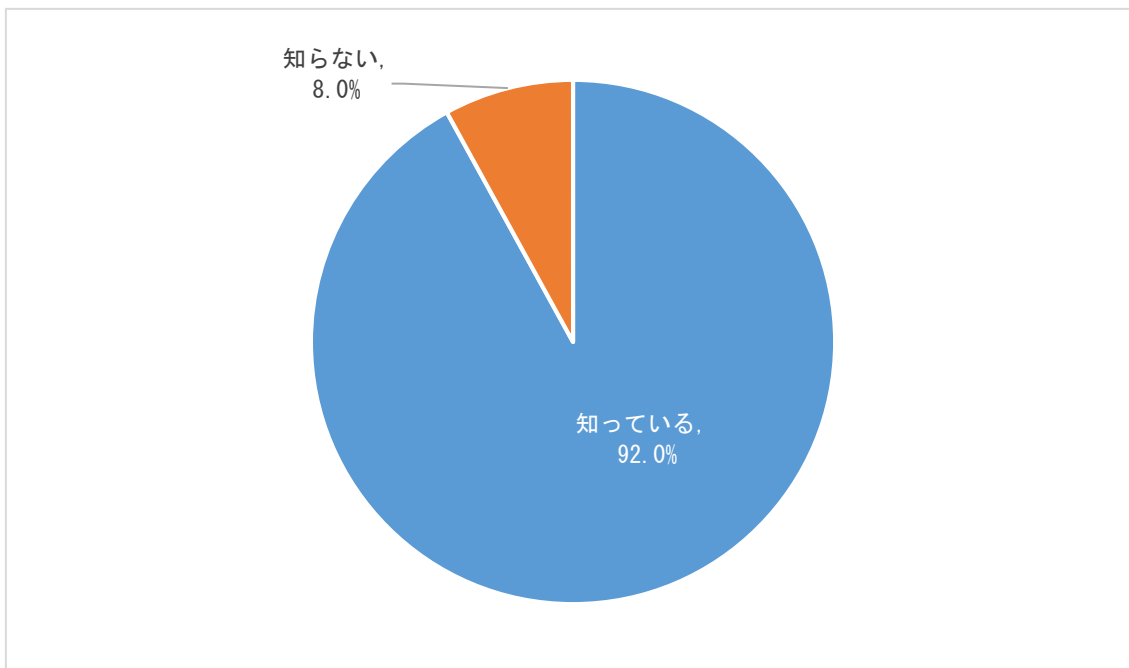
## 5 回答率

登録者(周知数)75 名 回答者 25 名 回答率 33.3%

問1 「子どもの貧困」という言葉を知っていますか。

9割以上の方が「知っている」と回答しました。

(1) 知っている	23人 (92.0%)
(2) 知らない	2人 (8.0%)



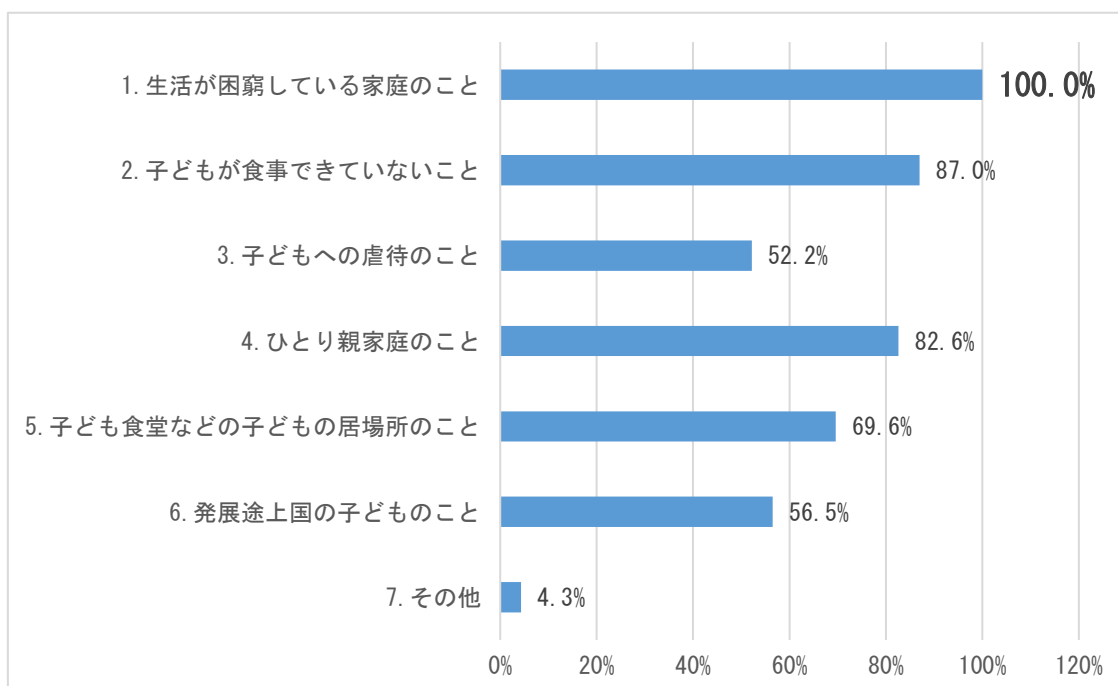
問2 (問1で(1)と回答した方へ)「子どもの貧困」と関連があるものとして、あなたが思いつくものはどんなことですか。(当てはまるものすべて)

「生活が困窮している家庭のこと」は全員が当てはまると回答し、「子どもが食事できていないこと」(87.0%)、「ひとり親家庭のこと」(82.6%)の順に続きました。

(1) 生活が困窮している家庭のこと	23人 (100.0%)
(2) 子どもが食事できていないこと	20人 (87.0%)
(3) 子どもへの虐待のこと	12人 (52.2%)
(4) ひとり親家庭のこと	19人 (82.6%)
(5) 子ども食堂などの子どもの居場所のこと	16人 (69.6%)
(6) 発達途上国の子どものこと	13人 (56.5%)
(7) その他	1人 (4.3%)

※その他の回答

「勉強したい」「習い事がしたい」「部活がしたい」など自己実現に向けた経験が経済的な理由によってできないこと



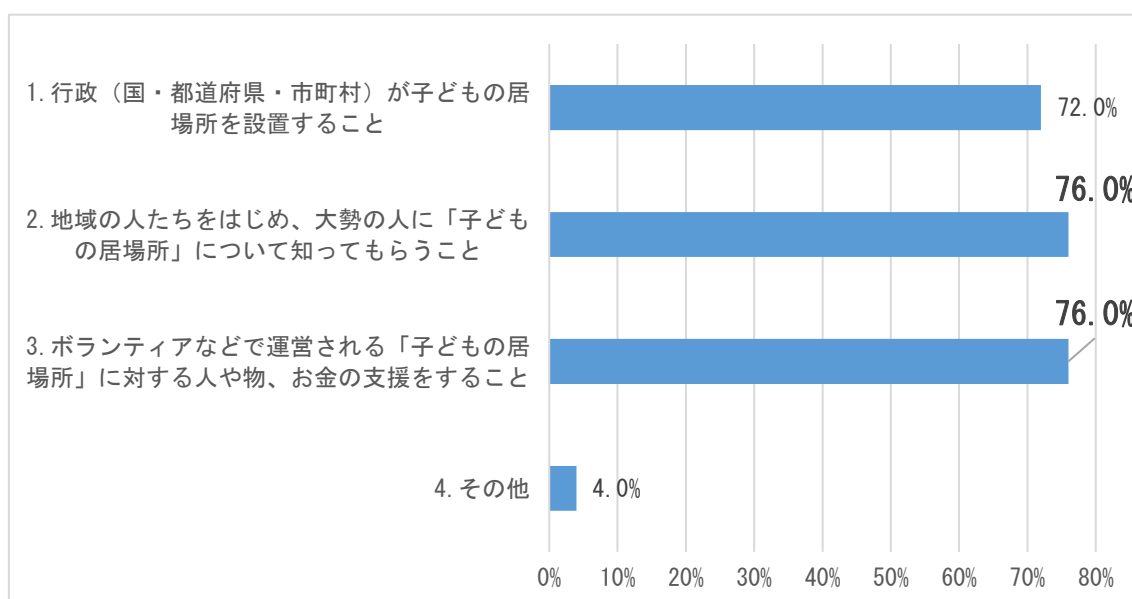
問3 北海道では「子どもの居場所」が全市町村に設置されることを目指しています。子どもの居場所を増やしていくために必要なことはどのようなことだと思いますか。

(1)～(3)全ての項目について、必要であるという回答が7割を超えました。

- |   |             |
|---|-------------|
| (1) 行政（国・都道府県・市町村）が子どもの居場所を設置すること             | 18人 (72.0%) |
| (2) 地域の人たちをはじめ、大勢の人に「子どもの居場所」について知ってもらうこと     | 19人 (76.0%) |
| (3) ボランティアなどで運営される「子どもの居場所」に対する人や物、お金の支援をすること | 19人 (76.0%) |
| (4) その他（自由記載）                                 | 1人 (4.0%)   |

※その他の回答

子どもの貧困や子どもの居場所についての正しい情報を広める事や、子どもの居場所のボランティア等を募集しているという事を多くの人に知ってもらうこと



問4 「子どもの居場所」の活動に参加したいと思いませんか。

・「参加してみたい」と回答した人の割合は約6割となっています。

(1) 参加してみたい	16人 (64.0%)
(2) 興味はあるが、参加することに不安がある	9人 (36.0%)
(3) 参加したいとは思わない。興味がない	0人 (0%)

